

「青森県産ホタテ」秋田・横手市の学校給食に登場

中国の輸入禁止続く中、食べて青森を応援！



18日の秋田県横手市の学校給食に、ベビーホタテがふんだんに使われたメニューが登場した。中国が日本の水産物を輸入禁止にしたことで、青森の企業などが抱えているホタテの在庫が横手市に無償で提供され、子どもた

ちが給食で味わった。

横手市の小中学校3校の給食で提供されたのは、青森の陸奥（むつ）湾でとれたベビーホタテのお吸い物。福島第一原発の処理水放出に反発し、中国が日本の水産物を全面的に輸入禁止にしたことで、ホタテの産地・青森は大量の在庫を抱えている。横手市には、このホタテ442キロが無償で提供され、市内の小中学校の給食に使われた。子どもたちにホタテを味わってもらうことで、家庭での消費拡大につなげることが狙いだ。提供された大森小学校の6年生の教室を訪ねると、子どもたちが笑顔でホタテを頬張っていた。児童は「新鮮でとてもおいしかった。とても甘かった」「やわらかくて、ホタテの味が出ていておいしかった」と話していた。

ベビーホタテを使った給食は、1月25日と26日にも別の小中学校で提供される予定。ホタテはコストが高いため、給食として提供されるのは珍しい。

(令和6年1月18日(木) A K T ライブニュース秋田より)